

被服整理に関する調査（第1報）

——本学被服学科学生の家について——

福田 瑛子

1. 緒 論

我々の日常生活の中での洗濯は、清潔な暮らしをするための重要な作業である。最近の合成洗剤や、半導体技術とマイコンソフトによる新水流の大型全自動洗濯機の開発は著しく、このような洗濯機の出現は、「被服が汚れたから洗う」から「着たから洗う」への洗濯習慣の変化に伴う洗濯物の増加や、女性の社会進出などに伴う生活の合理化、衣料素材の多様化によるものと思われる。

昨今の高度経済成長による社会の変化は、日常生活のあらゆる面に影響を及ぼし、家庭での洗濯行動においても変化が生じてきている。そこで日常ほとんど習慣的に行われている洗濯に関して実態を明らかにし、今後の被服教育の現場に生かしていきたいと思い本調査を行った。本報では被服整理に関する調査の内、洗濯に関して報告し、次報では仕上げ、保管等について報告する。

2. 方 法

1) 調査時期

調査時期は1989年6～7月

2) 調査方法

質問紙法によるアンケート調査を実施した

3) 調査対象

本学被服学科および被服コースの1～4年の学生を通じて各家庭に配布し、洗濯を行っている母親に回答してもらった。有効回収数は507、有効回収率は88.9%である。

3. 結果および考察

1) サンプル特性

家族構成は図1に示すように、「4人家族」が最も多く52%を占めている。又居住地は図2に示したように、「千葉県」が多く半数以上を占めている。調査に当たった母親の年齢は「40代」が83.2%、「50代」が16.8%であった。

2) 使用洗剤

家庭で使用されている洗剤は図3に示すように、圧倒的に「弱アルカリ性合成洗剤」が多く96%を占め、「粉末石けん」の使用は4%とごくわずかである。合成洗剤を使う理由として最も多いのが「汚れが落ちる」、次いで「使いやすい」、「すすぎがしやすい」、「購入しやすい」の順である。又「粉末タイプ」と「液体タイプ」では、圧倒的に「粉末タイプ」を使う家庭が多く90%であった。

合成洗剤の毒性や公害が問題化されて、粉石けんの使用が一時見直されたが、最近合成洗剤のコンパクト化と共に使用が又高まってきた。合成洗剤の安全性や環境に対する影響については、種々論議されてきたが、安全性については昭和54年科学技術庁が、通常使用においては「安全である」と報告書を出している。

3) 洗剤の洗浄力

図4では使用している洗剤の汚れの落ち方を質問したが、「汚れがよく落ちる」と答えている人が59%と半数以上を占め、「どちらともいえない」が34%、「落ちない」が5%となっている。落ちない汚れとしては、白靴下の汚れ、泥汚れ、衿汚れをあげている。

4) 洗剤の表示確認

洗剤容器に書かれている表示については図5の通り、「表示通り使用している」が77%と多

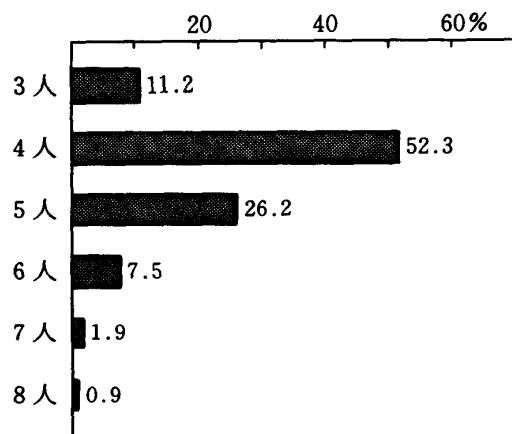


図1 家族数

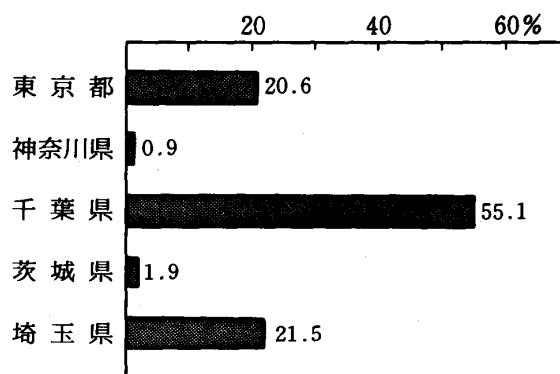


図2 居住地

く、「読まない」が20%、「その他」の中には時々読むと答えている。大部分の人は表示を見て洗剤を使用していることが分る。

5) 洗剤の購買

洗剤を購入する店は図6に示すように、「スーパー」で買う人が一番多く67%、次いで「近所の店」が19%、「その他」は生協、薬局、知人、通信販売員となっている。又洗剤の購入動機は「洗浄力がよい」、「コンパクトだから」、「テレビ・新聞などの広告をみて」、「価格が安い」の順であった。

6) 洗剤の使用状況

洗剤は「いつも同じものを決めて使っている」が図7に示す通り60%と多く、他の11%は「新しい洗剤が登場するごとに替える」、他の10%は「到来物」、「その他」の19%は「バーゲン品を買う」、「特価品をまとめて購入しておく」であった。

7) 取扱表示

洗濯の際、衣類に貼付されている「取扱表示を見て洗濯する」が図8の通り85%と非常に多く、「重視しない」が12%である。衣服を洗濯する場合、取扱いの目安となるのが製品に貼付されている絵表示である。この表示は家庭用品品質表示法において義務づけられており、

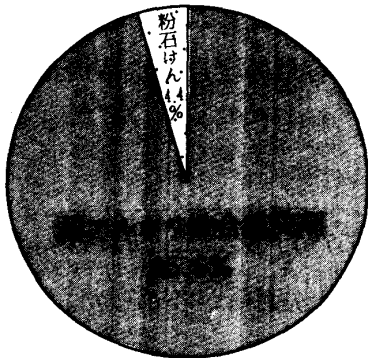


図3 使用洗剤

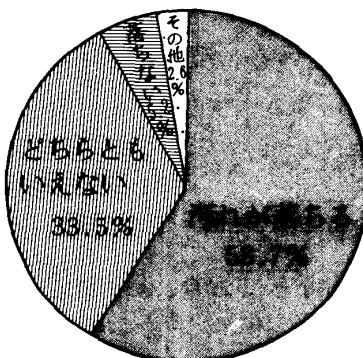


図4 洗剤の洗浄力



図5 洗剤の表示確認

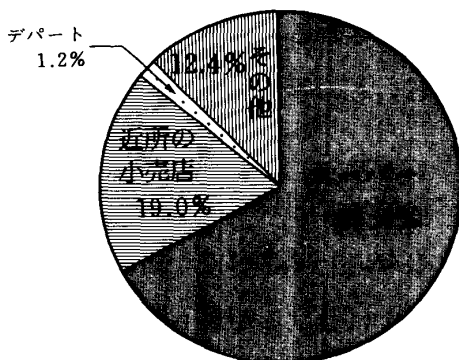


図6 洗剤の購買

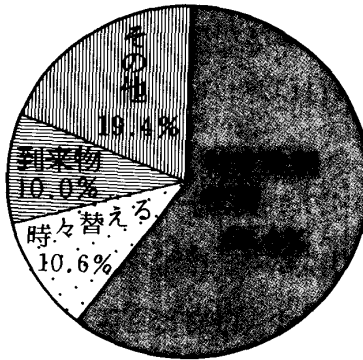


図7 洗剤の使用状況



図8 取扱表示

指標として大切な情報であるが、過剰ぎみな取扱い表示をつける傾向にある。例えば水洗い可能な製品に「ドライマーク」が付いていたり、免罪符的な表示が多くなっているのは問題である。

8) 洗濯機の機種

家庭で使用されている洗濯機の機種を図9に、型式を図10に示した。「二槽式洗濯機」を使用している家庭が50%、「全自動式」が31%、「自動二槽式」が19%と普通洗濯機と自動洗濯機の割合は半数ずつになっている。型式では「渦巻式」が64%と多く、「攪拌式」が24%で、渦巻式が主流になっている。

洗濯機を買う動機として一番多かったのが「メーカーを見て」で、次いで「機能的」、「使い方が簡単」、「価格が安い」の順であった。又洗濯用具の所有率は、洗濯機が100%で、次いで網袋、くずとりネット、タライ、洗濯ブラシ、洗濯板の順に家庭で備えている。

現在洗濯機の普及率は100%に達している。エレクトロニクスを活用した新しい全自動洗濯機が各メーカーから発売され、寝ている間に洗濯が終わっているなどの機能が開発され大変便利になった。一方家族は核家族になって少数化しているのに対し、洗濯機は大型化されている。これは洗濯に時間をあまり費やしたくないという点等から、なるべく一度で洗濯をすませるように、又家庭でもベットカバーやタオルケット、毛布などの大きなものまで洗えるようにということ等で大型化に進んでいる。現在市販されている大容量の全自動洗濯機は6.5 kgである。

9) 洗濯機の設置場所

洗濯機を設置している場所は図11の通り、「洗濯場」が多く57%、次いで「風呂場」の17%、「ベランダ」、「台所」の順となっており、「その他」としては洗面所が多かった。

10) 洗濯方法

洗濯物を洗濯機だけで洗っている家庭は図12に示す通り19%と少なく、大部分の家庭では手洗いと洗濯機の特徴を生かした洗濯法がなされている。「手洗い」されるものとしては靴下や下着、毛製品、レースや飾りの付いたおしゃれ着、汚れのひどいもの等であった。

11) 被洗物の仕分け

洗濯をする場合に、被洗物をどのように仕分けするかを調べた結果が図13である。被洗物を「仕分けする」が88%と圧倒的に多く、12%の人は「仕分けしない」ですべて一緒に洗濯をしている。仕分けするものとしては「白物と色落ちするもの」とに分けるが最も多く、次いで「下着と上着」、「汚れの程度」の順であった。

洗濯物を「白物と色物」に分けて洗濯する家庭が多いのに対して、図14に示したように洗

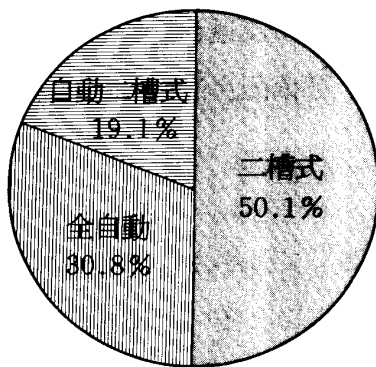


図9 洗濯機の機種

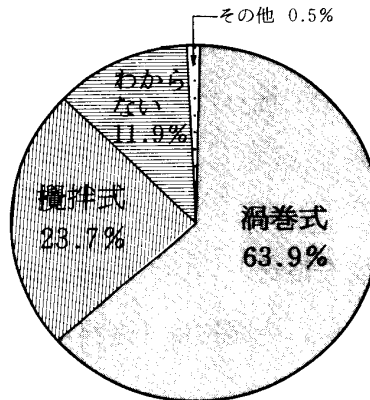


図10 洗濯機の型式

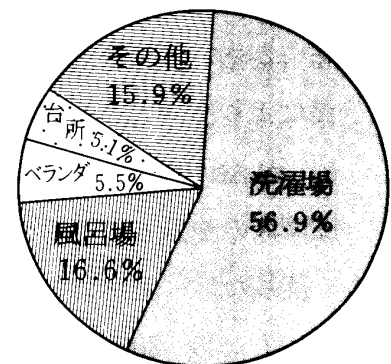


図11 洗濯機の設置場所

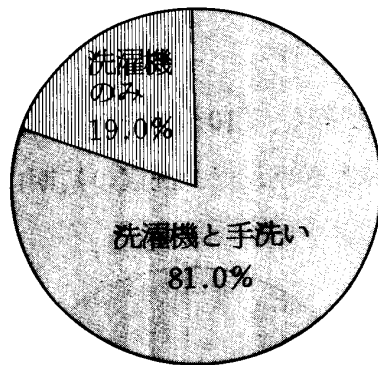


図12 洗濯方法

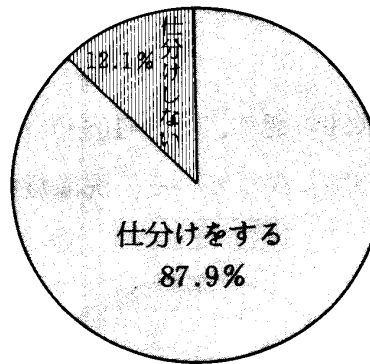


図13 被洗物の仕分け

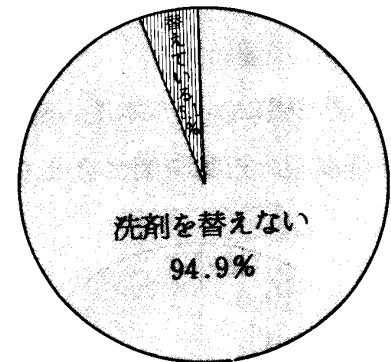


図14 白・色物の洗剤の区別

剤を区別する家庭は少ない。市販の蛍光剤配合の合成洗剤は、白物の洗濯には白さを増す効果があるが、これを色物、とくに「きなり」や「淡色」に染色されているものに、繰り返し使用していると色の変化が生じてくる。家庭に蛍光剤配合洗剤と未配合洗剤を用意し、色物には未配合洗剤を使用するのがよい。

12) 洗濯用水

洗濯用水としては水、湯、風呂の残り湯があげられるが、使用状況を図15に示した。「水」を使って洗濯する家庭が69%と半数以上を占め、「風呂の残り湯」が24%、「湯」を使う家庭は7%と少ない。

13) 予浸と予洗

洗濯に先立ち洗濯物を水や洗剤溶液中につけこむ予浸や、水だけで短時間洗う予洗が洗濯の手順として行われてきた。図17で「予洗をする」は「被洗物によって予洗する」を合わせると、25%と少ないが、図16の「予浸をする」は「洗濯物によってする」を含めると37%で、「汚れのひどいもの」、「しみの付いたもの」をあげている。汚れのひどい物は予浸をすると汚

れが落ちるという習慣が見られるが、この操作は、汚れを繊維の内部に浸透させ逆効果の研究報告がある。汚れたものはすばやく洗った方が汚れが落ちるが、酵素配合洗剤に限っては、予浸により洗浄力の効果を増す。

14) 洗浴の浴比

洗濯液の液量と被洗物の重量比を浴比といい、一般に浴比が大きくても小さくても汚れはよく落ちない。図18に示したように、洗濯物は「適当に入れる」が77%と多い。渦巻式洗濯機では1:25~30を規準としている。

15) 洗剤の使用量

洗剤の使用量を「計量している」が図19に示すように68%と多く、「適当」が30%となっている。最近の合成洗剤はコンパクト化され計量しやすくなっている。

16) 洗濯時間

洗濯機にかける本洗い時間は図20の通り、「5~10分」が41%と多く、「10~20分」が26%、「洗濯機の自動時間に合せる」が23%となっている。洗濯機械力が大きければ、洗濯の初期に

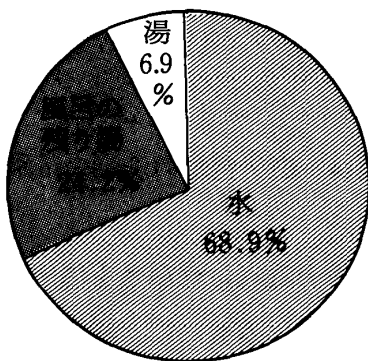


図15 洗濯用水

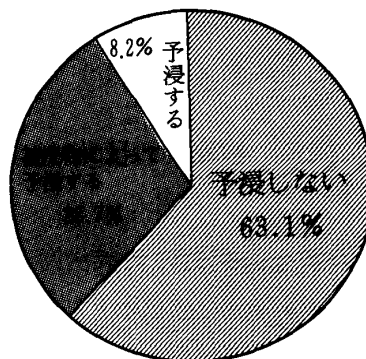


図16 予浸

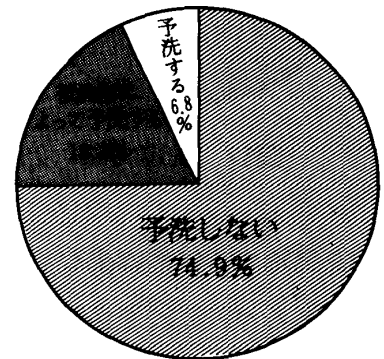


図17 予洗

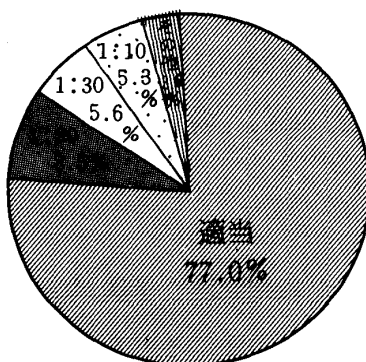


図18 洗浴の浴比

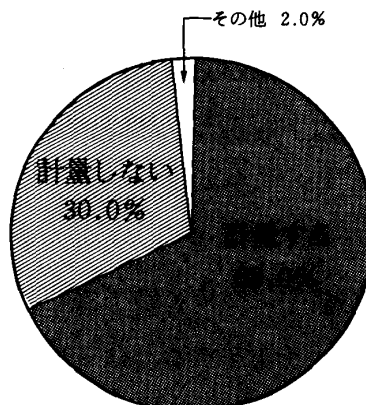


図19 洗剤の使用量

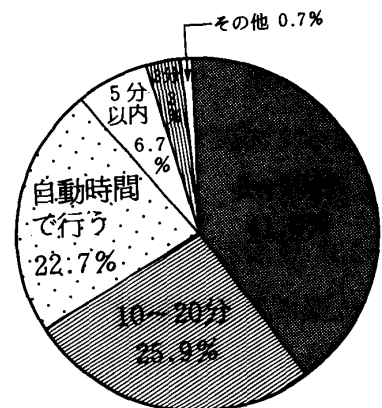


図20 洗濯時間

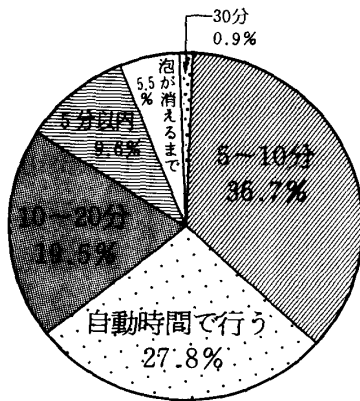


図21 すすぎ時間

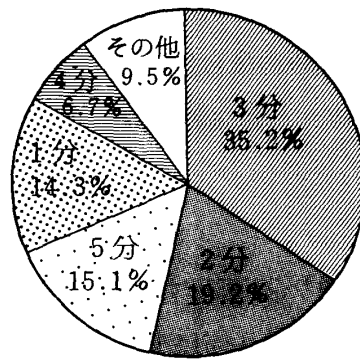


図22 脱水時間

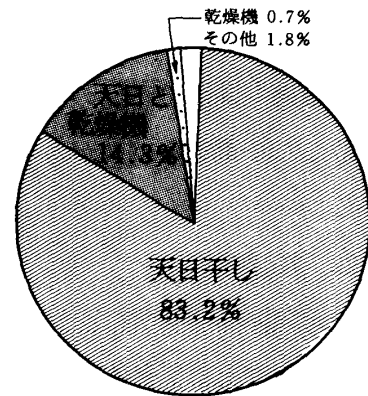


図23 乾燥方法

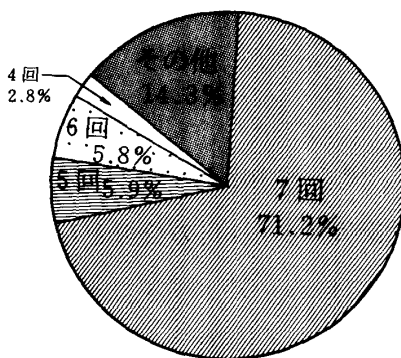


図24 一週間の洗濯頻度

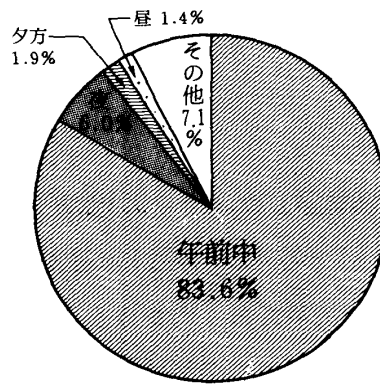


図25 洗濯を行う時間帯

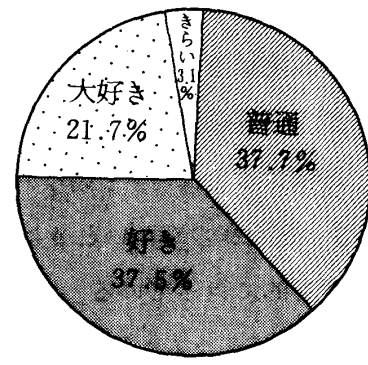


図26 洗濯の感想

大部分の汚れが除かれ、その後は時間をかけても効果はあまり期待できないし、布地の損傷を増す。渦巻式洗濯機では6～9分程度が適当とされている。

17) すすぎ時間

洗濯機でのすすぎ時間は「5～10分」が多く、次いで「洗濯機の自動時間」に合せる、次に「10～20分」の順になっている。図21に示したが、本洗い同様に時間をかけすぎるとオーバーフローすすぎでは水の不経済と布地の損傷を招くので、渦巻式で「ためすすぎ」では3分を2回、「オーバーフロー」では6～7分が適当とされる。

18) 脱水時間

図22に示したが「3分」脱水する家庭が35%、次いで「2分」、「5分」、「1分」、「4分」の順である。遠心脱水機の場合、脱水する量と繊維別で異なるが、最初の30秒間で大部分が脱水される。脱水時間が長くなるに従ってしわが生じるので短時間がよい。

19) 乾燥方法

乾燥方法としては太陽熱を利用する天日乾燥と、ガスおよび電気乾燥機による方法がある。図23の通り圧倒的に「天日乾燥」が多く、「乾燥機」および「天日干しと乾燥機併用」を合せ

ると15%である。乾燥機は洗濯機のような普及率はまだ望めないが、現在の普及率は今回の調査結果と同率の15%のシェアを占め、集合住宅や寒冷地では生活必需品化している。乾燥熱源として電気とガスがあるが、ガスは電気乾燥機より乾燥時間が早く、1/2の時間で乾燥出来る。

20) 洗濯頻度

1週間の洗濯回数は図24に示す通り、「毎日する」家庭が最も多く、「その他」の14%は一日に2回以上で、最高は7人家族で一日4回以上洗濯機を回すと答えている。

21) 洗濯を行う時間帯

洗濯を行う時間帯は図25に示すように「午前中」が圧倒的に多く84%で、朝の天候を見て行われている。

22) 洗濯の感想

洗濯は「きれい」という人は図26に示したように3.1%と少なく、その理由として「めんどろ」「冬期水の冷たいときはつらい」と答え、「普通」と答えた人は38%で、「毎日の日課として習慣的に行っている」、「洗濯物をためておくのがきれい」と答えている。又「好き」、「大好き」と答えた人が59%で、「きれいになるのが気持ちよい」、「家族がいつも清潔でいてほしい」、「洗濯物が干してあると幸せを感じる」であった。清潔好きな日本人のイメージ通りである。

4 まとめ

日常習慣的に行われている洗濯に関して、主婦を対象にその実態調査をした結果、次のようなことが明らかになった。

- 1) 使用している洗剤は圧倒的に弱アルカリ性合成洗剤の粉末タイプが多く、粉末石けんの使用は少ない。
- 2) 洗剤の使用量は計量して使う人が多く、表示を読み表示に従って使用している。
- 3) 洗濯はほとんどの家庭が毎日洗濯を行っている。
- 4) 洗濯機は二槽式洗濯機と自動洗濯機の割合は50%ずつで渦巻式が主流である。
- 5) 洗濯方法は手洗いと洗濯機の特徴を生かした洗濯法がなされ、手洗いするものとしては靴下や下着、毛製品、汚れのひどい物である。
- 6) 洗濯する際はほとんどの家庭で被洗物を仕分けしている。仕分けの方法は白物と色物、下着と上着、汚れの程度で分けているが、洗剤は白物と色物を一種類の洗剤で洗濯している。
- 7) 洗濯用水の温度は大部分の家庭が水で行っている。

8) 洗濯する際、浴比は無視して行っている。

9) 乾燥方法は天日乾燥が圧倒的である。

アンケート調査にご協力いただいた和洋女子大学、同短期大学被服学科・被服コースの皆様
様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 佐々木雅彦：比治山女短大紀要 7、77 (1973)
- 2) 前川清子：長崎女短大紀要 24、31 (1976)
- 3) 中屋弘子、藤田敦子、鷹嘴洋子：盛岡短大研究報告 21、83 (1970)
- 4) 堀内雅子：衣生活、31、23 (1988)
- 5) 竹下弓子、辻啓子、林豊子、山田令子：織消誌、30、265 (1989)